

# 令和5年度 学校経営方針

生徒一人一人が郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、創造力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓いていけるよう、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和のとれた教育活動を展開し、仲間とともに切磋琢磨し、学び続ける生徒を育成する。

本校の生徒は、個々の生徒のよさをみんなが認め合い諸活動に活かすという小学校の時から培ってきた和やかな雰囲気を持っている。その特性を活かし、生徒同士の相互理解や教師の十分な生徒理解のもとで諸活動に取り組みせながら、生徒も教師も常に創意工夫していくことを大切にする。

また、生徒と向き合う時間の確保、保護者との密な情報交換と保護者への迅速・丁寧な対応、地域との連携により、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。

## 1 生徒の実態

本校の生徒は素直で、係活動や行事等には真面目に、一生懸命に取り組んでいる。大きな非行はなく人間関係も概ね良好であるが、気持ちの行き違いなどから仲たがいが生じることもある。授業中の態度は概ね良好で、学習課題に真剣に取り組んでいる姿が見られる。しかし、各種調査の結果からは学習内容の定着不足がうかがえ、学力の向上が本校生徒の大きな課題である。与えられた課題はこなすがそれ以上のことはやらないなど、受け身の姿勢となっている。友とともに学習することの楽しさや知識及び技能を獲得できる喜び、知識及び技能を活用し課題を解決できる喜びを味わわせ、主体的に粘り強く学習することが自分をよりよく成長させていくという意識を身に付けさせたい。

また、本校生徒はインターネットやゲーム等に費やす時間が長時間である生徒の割合がとても多く、令和4年度調査では平日でも3時間以上の生徒の割合は54.2%であった。家庭学習の不足や睡眠不足の状況となり、学習内容を確実に定着させられていないことの大きな要因と言える。家庭の協力を得ながら学習習慣・生活習慣の改善を図っていかなければならない。同時に、それぞれの生徒がインターネットやゲーム等に費やす時間を自制し、正しい生活習慣を確立し、学習時間の確保と学習内容の確実な定着を図れるよう指導・助言に努めていきたい。

## 2 学校の教育課題

「全教育活動に、主体的に粘り強く取り組む生徒の育成」

## 3 教育目標

「心やさしく逞しく、学び続ける生徒」

## 4 努力目標

- ・目標を持って主体的に学習する生徒 (知)
- ・思いやりの心を持ってふれあう生徒 (徳)
- ・仲間と共に進んで心身を鍛える生徒 (体)

## 5 合い言葉

「明るく、優しく、正しく、逞しく」

## 6 経営の基本方針

- (1) 分業・協働の姿勢で、チームとなって教育活動を推進する。また、校務について主たる担当者を置くものの、原則的に組織で対応する。
- (2) 同僚や生徒とのふれあいや家庭・地域との交流を通して、温かな信頼関係を築く。
- (3) 教員としての実践的指導力の向上に努め、生徒個々の確かな学力の定着・向上を図る。
- (4) 生徒一人一人を大切に、授業や行事を通して「自己有用感・達成感」を味わわせる。
- (5) 教育公務員としての自覚と使命を心から離さず、服務規律を確実に遵守する。

## 7 めざす学校・生徒・教師の姿

### (1) めざす学校の姿

- ①いじめや非行のない、落ち着いた生活ができる学校
- ②目標達成のために、職員と生徒が共に一生懸命励む学校
- ③保護者や地域の人々から協力が得られ、信頼される学校

## (2) めざす生徒の姿

- ①夢や目標を抱き、進んで学習をする生徒
- ②心やさしく、進んで挨拶や声かけをする生徒
- ③健康に気をつけ、進んで心身を鍛える生徒

## (3) めざす教師の姿

- ①生徒の良き手本となり、生徒のそばで共に励む教師
- ②常に研鑽を積み、総合的な実践的指導力の向上に努める教師
- ③職務を誠実に遂行し、同僚や生徒、家庭・地域に信頼される教師

# 8 指導の方針

## (1) 各教科

- ①各種調査の分析から個及び全体の実態を正確に把握し、指導に生かす。
- ②「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「GOLD22」「授業改善ルート7」を踏まえた指導に努め、生徒個々の確かな学力の向上と定着を図る。

## (2) 特別の教科 道徳

- ①道徳の時間を要として、全教育活動を通して生徒個々の「道徳性」を育成する。
- ②善悪の判断ができ、相手の立場に立った言動ができる心やさしい生徒を育成する。

## (3) 特別活動

- ①学級活動や委員会活動、全ての学校行事を通して「自己有用感・達成感」を味わわせる。
- ②生徒個々の抱えている夢や目標達成のために、3年間を見通した進路指導の充実に努める。

## (4) 総合的な学習の時間

- ①一人一人の生徒が学び方を身につけ、より良く問題を解決する能力の育成に努める。
- ②探究的活動を通して理解力を深め、自己の生き方を考えさせる学習活動を展開する。

## (5) 生徒指導

- ①積極的なふれあいを通して生徒個々の正しい理解に努め、温かな信頼関係を築く。
- ②いじめのない落ち着いた学校生活を目指し、職員の共通理解と共通行動の徹底を図る。

## (6) 校内研修

- ①一人最低一つの研修会に参加し、個々の指導力の一層の向上と情報の共有に努める。
- ②校内研修や積極的な相互授業参観を通して、教員として実践的指導力の向上に努める。

## (7) 特別支援教育

- ①生徒一人一人の実態把握を基に校内体制を整え、全職員によるふれあいや支援に努める。
- ②協力学級や縦割り集団との交流を図りながら、両者の相互理解と共生意識を育成する。

# 9 今年度の重点実践内容

## (1) 生徒に寄り添う指導を基本とし、温かな信頼関係を築く。

- ①教職員と生徒、教職員同士の挨拶の励行を図り、温かみのある人間関係を築く。
- ②生徒に寄り添う指導を基本とし、常に最新の生徒理解に努め、指導に生かす。
- ③生徒や保護者からの相談に対しては、傾聴の姿勢で常に誠実に対応する。

## (2) 「GOLD22」「授業改善ルート7」を踏まえた授業の実践により、学力の定着・向上を図る。

- ①授業づくりの4段階(課題設定、学び合い・定着の場の設定、まとめ、振り返り)を実践する。
- ②諸検査や日々の授業観察から個及び集団の状況を把握し、指導の工夫・改善に生かす。
- ③各教科から効果的な宿題を課し、家庭学習の一層の習慣化と充実に努める。

## (3) 全教育活動を通して生徒の「自己有用感・達成感」を味わわせる。

- ①道徳の時間や短学活、全ての場面を用いて、望ましい道徳的心情・態度を育成する。
- ②生徒指導の三機能を念頭に置き、生徒が活躍できる学年・学級経営、教科指導を行う。
- ③認め・励ます姿勢を第一に諸活動や行事等を行い、「自己有用感・達成感」を味わわせる。